

研究・調査報告書

報告書番号	担当
181	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol consumption is associated with an increased risk of erosive esophagitis and Barrett's epithelium in Japanese men.</p> <p>アルコール摂取はびらん性食道炎やバレット上皮のリスク上昇と関連する</p>	
執筆者	
Akiyama T, Inamori M, Iida H, Mawatari H, Endo H, Hosono K, Yoneda K, Fujita K, Yoneda M, Takahashi H, Goto A, Abe Y.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
BMC Gastroenterol. 2008;11:58	
キーワード	
アルコール摂取、びらん性食道炎、バレット上皮	
要 旨	
<p>目的： アルコール摂取と逆流性食道炎のリスク上昇については議論の最中である。本研究では日本人男性を対象に、アルコール摂取とびらん性食道炎やバレット上皮の関連を検討する。</p> <p>方法： 本研究では2005年8月から2006年7月に横浜市大病院消化器内科で上部消化管内視鏡を受検した463人の男性を対象に検討した。びらん性食道炎の診断はロサンゼルス分類と尾プラハCおよびM診断基準を用いた。飲酒状況により対象者を4群(非飲酒者、軽飲酒(25g/d未満)、中等度飲酒(25g/d以上50g/d未満)、多量飲酒(50g/d以上))に分類した。線形ロジスティック回帰により飲酒量と食道病変との関連を検討した。</p> <p>結果： 非飲酒者と比較すると飲酒者はびらん性食道炎のリスクが上昇していた(オッズ比(OR)(95%信頼区間(CI) 軽飲酒者 1.11(0.55-2.23), 中等度飲酒者 1.88(1.02-3.48), 多量飲酒者 1.99(1.12-3.53))。バレット上皮の OR は軽症飲酒 1.28(0.75-2.17), 中等量飲酒 1.46(0.87-2.43), 多量飲酒 1.91(1.19-3.09)であった。エタノール 1g あたりのオッズ比はびらん性食道炎が 1.02(1.00-1.03)、バレット上皮が 1.01(1.00-1.02)であった。</p> <p>結論： 本研究の結果からアルコール摂取は日本人男性においてはびらん性食道炎およびバレット上皮のリスク上昇と関連を認めた。</p>	